

経営比較分析表（令和3年度決算）

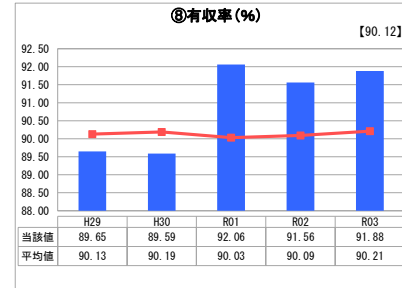
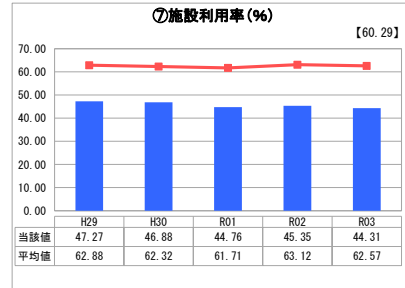
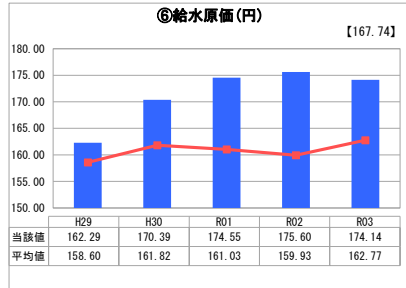
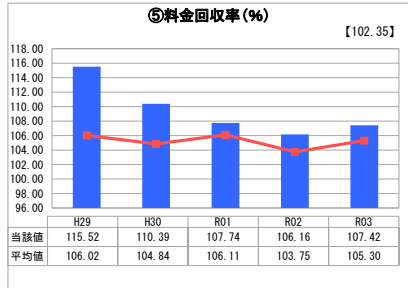
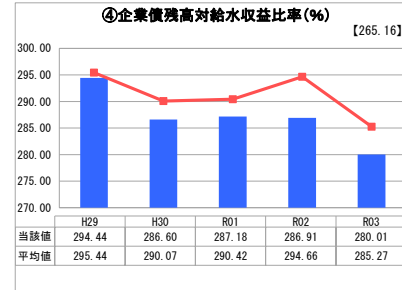
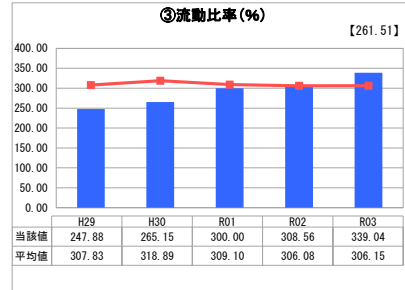
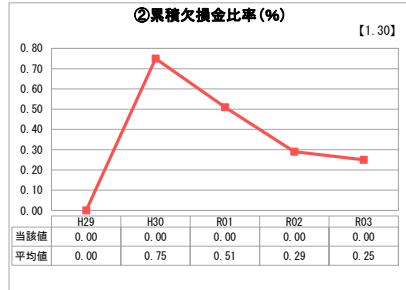
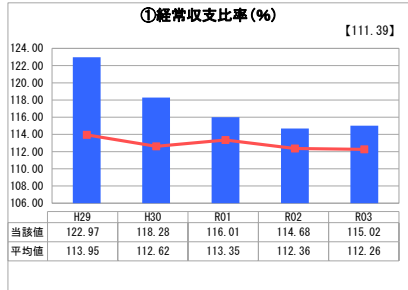
山口県 宇部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	69.51	99.39	3,091	

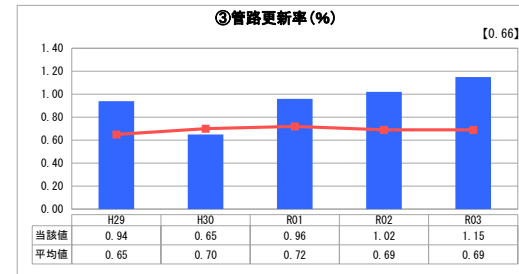
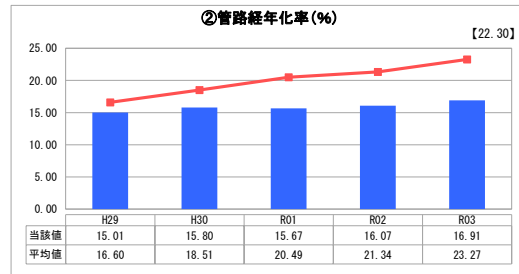
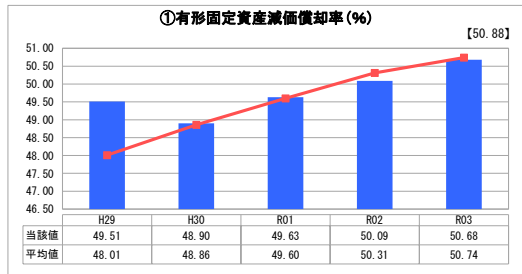
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
161,767	286.65	564.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
160,199	135.71	1,180.45

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

毎事業年度黒字計上により経常収支比率は100%を超えるとともに、流動比率は339.04%となっていることから、本市の水道事業は、現時点においては経営の健全性を保っていると言える。しかし、今後は、老朽化施設の維持費や施設更新に伴う減価償却費の増加、更に物品価格上昇・電気料金の高騰が見込まれる一方で、給水収益は減少していくと考えられることから、これらの指標は、状況によっては急激に下降していくことも考えられる。

企業債残高対給水収益比率については、企業債の新規発行額を償還額の範囲内に抑えてきた結果給水収益の三倍以下を維持できたが、今後老朽化施設の大規模更新時期を迎えることから、現状以上の抑制は難しい。施設更新にあたっては、規模の適正化を図り事業費を圧縮することにより、企業債発行額の抑制に努める必要がある。

給水原価は、施設の維持補修費用や減価償却費等の増加に伴い上昇傾向にある。今後も、施設更新に伴い減価償却費が増加する見込みであることから、給水原価の抑制は難しいと考えられる。

有収率については、老朽管の更新や漏水調査等に努めた結果、91.88%を達成した。有収率は効率的な事業運営のための重要な指標であることから、今後も予防的対策に努め、90%台を維持したい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については類似団体平均値とほぼ同じ水準となっているが、今後の施設更新計画では、実耐用年数をベースに優先順位を付けて施設更新を行う予定であることから、上昇傾向となる見込みである。

管路更新率については、老朽管の更新事業に年次的に取り組んできた結果、類似団体よりも下回っているが、上昇を抑えるためには継続的な更新が必要となる。

管路経年化率は1.15%で、目標である年1%を上回った。今後も、管理ごとの実耐用年数を定め、管路の状況、重要度を勘案し計画的な更新事業に取り組みることとしている。

全体総括

現在、経常収支比率が高く単年度で黒字を計上しているが、施設利用率は低く、給水原価も類似団体と比べ高くなっているなど課題も多い。なお、新型コロナウイルス感染症により、家庭用以外の有収水量の落ち込みも大きくなっていることから、給水原価は今後も高水準で推移していくと思われる。

水需要の変化や減少に伴い水道料金収入の減少が見込まれる中で、施設更新のための財源確保に努めつつ効果的な投資を行うためにも、中長期的な更新計画を策定し、水道サービスの維持に努める必要がある。また、施設更新にあたっては、近隣事業者との広域化も視野に入れ、施設規模の適正化を図る必要がある。